

第4章 高齢者保健事業の推進

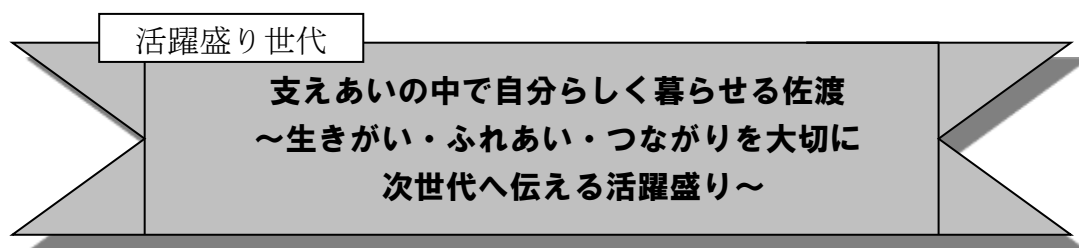
1 保健・福祉の基盤現況

高齢者を支える保健・福祉の基盤として、市内には保健センター3か所、母子健康センター2か所（平成30年4月からは1か所）、総合相談窓口として地域包括支援センター4か所、在宅介護支援センター4か所を設置しています。また、集会場やコミュニティセンター、集落センター等各集落にある施設を活用した介護予防事業を積極的に展開し、高齢者の健康増進や支援が必要な人を支えています。こうした各種事業にあたっては、医療機関や関係機関と連携して実施しています。

2 健康づくり

「健幸さど21・第2次計画」の高齢者に関する事業について、関係機関と連携して事業実施を図り、高齢者自らが行う健康づくりについて啓発活動を充実し、市民の健康寿命の延伸と生活の質の向上をめざします。

図表 4-2-1 健幸さど21・第2次計画における活躍盛り世代（高齢期）の目標



次の重点取組により、活躍盛り世代の健康づくりを推進します。

(1) 生涯現役を目指し、自分に合った健康づくりに取り組む

① 健康でありたいという意欲を持ち続ける

加齢に伴い、心身の機能は衰えていきますが、仕事の第一線を退いても家庭や地域において役割があり、活躍し続けています。

健康意識を持ち続けることで、健康寿命を延ばせるように、様々な方向から働きかけます。

② 必要な時期に適切なサービスを受ける

第二の人生を楽しむことは、老いと上手に付き合うことにもつながります。

高齢者の中には、支援や介護を要する状態になっても、他人に頼ることに
対する遠慮や、近所の目を気にしてサービスを利用することに抵抗感を持つ
人もいます。

住み慣れた地域で、できるだけ自立して生きがいを持ちながら活動的な生
活が送れるように、公的サービスや地域の力を活用します。

(2) 地域の人とのつながりの中で、生きがいを持ち活躍する

① 自分自身の経験を活かして、次世代へ伝える

地域行事で培われてきた地域の伝統が消えつつある現状です。集まる機会
を大切にして様々な世代とふれあい、地域の伝統と高齢者の知恵や経験を継
承します。

② 市民が支えあう地域づくりに取り組む

公的サービスだけでは生活を支えきれない部分もあります。地域でお互い
が協力し合いながら生活することは、安心・安全に過ごすことにつながりま
す。何か自分に出来ることはないか皆で知恵を出し合い、高齢者自身も地域
活動に参加して活躍することで、支えあいが実践できるようにしていきます。

3 健康診査・保健指導

多くの高齢者の保健事業は健康増進法の中で実施され、健康寿命を延ばすた
めの疾病予防対策がより重要な事業として位置づけられています。

(1) 特定健康診査等

医療保険者ごとに40歳から74歳までの年齢層に対する特定健康診査と特
定保健指導について、第2期佐渡市特定健康診査等実施計画を策定し、実施
しています。

図表4-3-1 特定健康診査・特定保健指導の状況(65~74歳)

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定健康診査受診者数	4,219	4,167	4,647
特定保健指導対象者数	420	428	465
特定保健指導終了者数	144	164	201

※ 平成29年度は見込値。以下同様。

後期高齢者健康診査は、75歳以上の高齢者を対象とした健康診査は、医療保険者である新潟県後期高齢者医療広域連合会から、佐渡市が委託を受けて実施しています。

図表4-3-2 後期高齢者健康診査の状況(75歳以上)

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
健診受診者数	2,651	2,724	2,948

【課題と見直し】

特定健康診査の受診率は増加傾向にありますが、それと共に保健指導対象者も増えてきています。受診中で経過を診ていることや自覚症状がないこと等を理由に受診されない方が見られます。健診を受診することで自分自身の健康状態の確認や生活習慣の改善につなげていく必要があります。

【今後の方向性】

健診受診率の向上を図るとともに、特定保健指導の実施率を目標に近づけるように努めます。健診会場でも、受診者に生活習慣の改善を意識してもらえようように掲示物や展示等の工夫をします。

(2) 骨粗しょう症検診

高齢期では筋骨格系疾患が原因で寝たきりや、骨粗しょう症による背中や腰の痛みから活動制限や機能低下による閉じこもりに結びつくことが多いため、40歳から70歳の女性に対して節目年齢で実施し、早期発見及び早期治療により重症化を予防しています。検診結果に応じて、保健師・栄養士による保健指導を実施しています。

図表4-3-3 骨粗しょう症検診の状況(65・70歳女性)

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
受診者数	258	279	220

【課題と見直し】

骨粗しょう症のもっとも重大な合併症は骨折で、高齢化に伴う骨粗しょう症患者数の増加とともに増えています。

平成28年度から、判定基準が変更されたことで、精密検査の対象となる方が約7割とかなり高い状況です。骨粗しょう症予防に対する取組が必要です。

【今後の方向性】

地区健康学習会等を利用し、骨粗しょう症及び転倒予防に関する正しい知識、生活上の留意点等について健康教育を実施するとともに、保健指導対象者に対して健康相談等を行い、生活習慣の改善が図れるよう努めていきます。

(3) がん検診

胃がん・大腸がん・肺がんは40歳以上が対象者で年1回、子宮頸がんは20歳以上女性で2年に1回、乳がんは40歳以上女性で2年に1回です。また、特定健康診査の際に50歳以上の男性を対象に前立腺がん検診を実施しています。市民が受診しやすいよう、早朝検診や複数の検診を同時に開催するなどしています。

図表4-3-4 がん検診受診者の状況（65歳以上）

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
肺がん検診	7,991	7,876	7,621
胃がん検診	3,225	3,139	2,964
大腸がん検診	4,400	4,522	4,428
子宮頸がん検診	913	927	899
乳がん検診	1,126	1,204	1,162
前立腺がん検診	1,303	1,715	1,751

【課題と見直し】

がん検診の受診率は多少の変動はあるものの、ほぼ横ばいの状況が続いています。がん検診によるがん発見は後期高齢者に多くみられる一方で、がん検診後の精密検査の未受診者が見受けられます。

がんは死因第1位であり、検診を実施して早期発見・早期治療に努めていますが、高齢を理由に検診を受けない方が多くなる傾向がみられます。

【今後の方向性】

がん検診の受診の意義や、検診について周知することで、受診率の向上に努めるとともに、がん検診後の精密検査が必要な者に対する指導、未受診者に対するフォローを実施していきます。

(4) 訪問指導

健診結果等で保健指導が必要な方、介護予防のために支援が必要な方、介護に携わる家族、その他医療機関や民生委員等からの情報をもとに、生活習慣病の重症化予防の取組として保健師や栄養士が訪問指導を行っています。

【課題と見直し】

訪問指導件数は年々減少傾向にあります。

【今後の方向性】

生活習慣病の重症化予防のために訪問指導を継続実施していきます。

4 歯科保健対策

歯や口の健康は身体と心の健康を支える大きな柱であり、生き生きとした健やかな人生を送るために欠くことのできないものです。

本市では、平成28年3月に「第2次佐渡市歯科保健計画」を策定しました。活躍盛り世代（高齢期）においては、おいしく食べるための生活習慣を継続し、障がいをかかえても適切なケアにより、歯や口の健康維持や向上をめざし、関係機関との協働で推進しています。

(1) 歯周疾患検診

生涯自分の歯で食事を楽しむことができるよう、早期発見・早期治療を目的に検診を実施しています。あわせて、歯科医師や歯科衛生士による歯周疾患予防の方法や、必要に応じて口腔機能の維持・向上について指導しています。

図表4-4-1 歯周疾患検診の状況（70歳）

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
受診者数	59	118	126

【課題と見直し】

日常生活圏域ニーズ調査によれば、口腔機能低下リスクに該当する一般高齢者は20.3%、軽度認定者では45.5%であり、年齢区分が上がるにつれてリスクの出現率も上昇しています。

【今後の方向性】

生涯自分の歯で食事を楽しむことができるよう、早期発見・早期治療を目的に歯周病検診を引き続き実施します。あわせて、歯科医師や歯科衛生士による予防の方法や、必要に応じて口腔機能の維持・向上について指導します。

5 食育と食支援

食は人間が生きていく上で基本的な営みの一つであり、心身ともに健康な生活を送るためには健全な食生活は欠かせないものです。

佐渡市では「第2次佐渡市食育推進計画」を平成28年3月に策定しました。この計画書に基づき家庭・地域はもとより、各地域の組織等との連携により推進しています。

日常生活圏域ニーズ調査によれば、低栄養リスクの該当者は、一般高齢者では0.8%、軽度認定者では3.0%と高くありませんが、活躍盛り世代（高齢期）では、生活習慣病や歯周疾患等のリスクが高くなる一方、生活機能低下による買物や調理能力など、栄養を摂るための機能低下が懸念されます。

食を通じて健康でいきいきと元気に生活する為に、生活習慣病予防や高齢期の望ましい食生活に対する啓発と、地域や関係団体が一体的に高齢者の食育・栄養対策を支援します。また、地産地消や食の安全・安心、栄養教育等で、次の世代への食育事業の展開を図るにあたり、佐渡の食文化を守り、継承する活動への高齢者の活躍の場を促進していきます。